

油汚染土壌

微生物使い現場内浄化

鹿島ら9社 国の適合確認取得

鹿島など9社は、油で汚れた土壌を、微生物を使って現場内で浄化する工法を開発した。経済産業省と環境省が定める「微生物によるバイオレメディエーション利用指針」の適合確認を取得した。土着の微生物を使う浄化方法が1年程度かかる場合、新工法は1-3カ月で浄化できる。油

がなくなれば微生物は消滅するため、生態系などに対する影響も少ない。油で汚染された土壌の浄化技術の一つとして積極的に展開する。

共同申請したのは、バイオ・ジェネシス、テクノロジージャパン、鹿島、ケミカルグラウト、建基興業、大興物産、地崎道路、東電環境エンジニアリング、日本基礎技術、日本国土開発の9社。開発した「4種の油分解菌を用いた土壌浄化工法」は、米国で確立したバクテリアを使う。米国から種菌を輸入し、

日本で純粹培養する。油の汚染には基準がないが、無臭に感じられる1キログラムあたり100ミリ以下に油濃度を下げ

る。汚染土壌を浄化ヤードに搬入した後、4種複合菌を200倍に希釈し、栄養剤を加えて散布する。

同工法は国内でも北海道を中心に、約100件の適用実績がある。鹿島は、適合確認を取得できたことから、土壌浄化工法として全国的に展開する。